



心療内科医のひびり言

2017年度

中野弘一 医師

60歳の男性が薬の変更について相談に来院した。身体にあちこち不具合があり、高血圧と膝の関節の治療は総合病院でそれぞれ専門の医師に診

安定剤の選び方

てもらっていた。また、かかりつけ医の先生には風邪が治りにくいときなど、なにかと相談に乗ってもらっているという。循環器が専門のかかりつけ医の先生には、別の病院で血圧の治療をしていることが申し訳なく思い伝えていなかった。ただ、薬局の薬剤師さんに安定剤の薬が重なって

ることを教えてもらい、どの薬を減らすかは専門の方に相談するのが良いと考え、心療内科に紹介状を持たずに来診した。3種類の安定剤が処方さ

どの薬も大体同じ強さになるように調節してあることを説明した。「50が5よりの10倍強くて、50が0・5よりの100倍強い」といふことはなく、50も5も0・5も大体同じ強さなんです」と伝えた。彼は「血圧の薬も同じかね?」と続けて僕に質問をした。僕は「血圧の薬は1日3回服用したり、朝1回服用すると丁

れていた。

彼はわたしに重なっている薬局に教えてもらった薬を見せてくれた。「これは1錠が50ミリ

書いてあり、こっちは5ミリ、そして最後は0・5ミリと表示してある。一番

量の多い50ミリから止めるのがいいと思う」と切り出した。僕は1錠あての用量は

度よくしてあります。最近の降圧剤は1回で3回服用するのと同じ効果が出るように、長く血の中に均等に効くように設計されたものが一般的になっています」と伝えた。彼は「今まで用量が多い方が強く身体に負担になっていると何となく思っていました。今日は相談に来てよかったです」

と喜んでくれた。強さの違いのことは力価と説明する。日本で使える安定剤はおそらく世界で一番種類が多い。薬を選ぶ係の僕らは1錠が何ミリで作られているかではなく、薬が身体から代謝されて減っていく時間と期待される力価の組み

合わせて薬の種類を決めていく。もちろん年齢、また肝臓の酵素の働きによって、薬の代謝されるスピードが異なるため計算通りには作動しない。抗がん剤はオーダーメイドの治療薬が選べるように進歩しているが、副作用がなくて最大の効果が



出よう
に安定剤
の量と種
類を選択
するに
は、今も
って僕ら
がさじ加
減で決め
ている非
科学の世
界であ
る。
(三愛病
院心療内
科医師・
東邦大学
医学部教
授)